

ひとが輝くまち

広報

ゆざ



YUZA Town Public Relations

令和元年 No.700

6



## 今月の話題

「広報ゆざ」おかげさまで700号

祭を興せ

ほか

2P

4P



## 広報ゆざ 第100号

昭和44年7月1日発行

B5判 12ページ

B5判の冊子形式になっていますが、紙面の内容は町の施策が中心で、町内のイベント等についてはあまり取り上げられていません。学校給食の献立予定表が掲載されているのが目を引きます。当時の献立は、主食がすべてパンだったんですね。

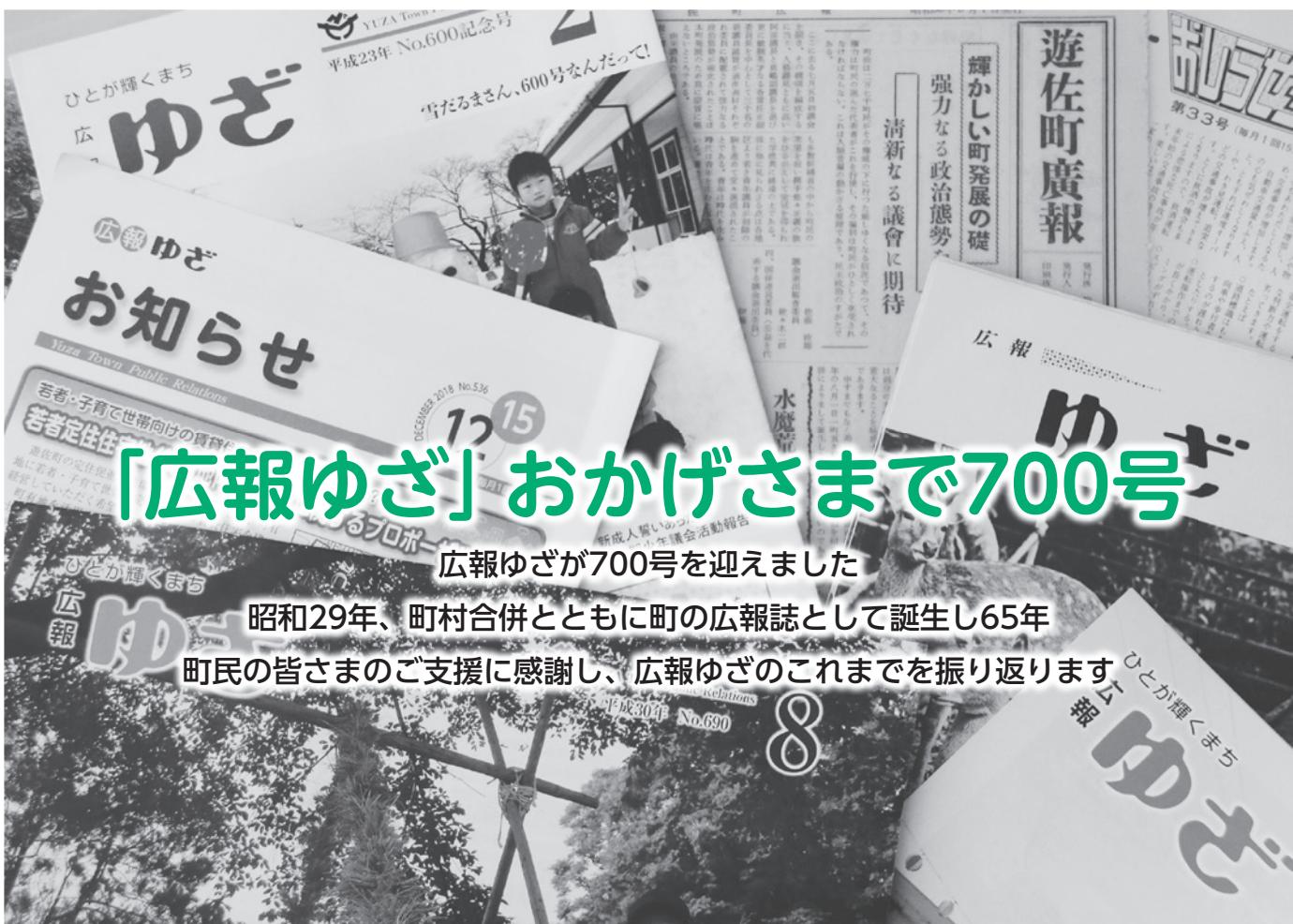


## 遊佐町廣報 創刊号

昭和29年9月1日発行

タブロイド判 2ページ

町村合併特集号として発行。当時はタブロイド判で発行され、「新遊佐町の誕生にあたって」の記事が掲載されています。編集後記には「小生も又、肩ばらないで、皆に読まれる、親しまれる広報の編集に努力したい」と記され、創刊号から町民に親しまれる広報をめざしていたことがわかります。



# 「広報ゆざ」おかげさまで700号

広報ゆざが700号を迎えました

昭和29年、町村合併とともに町の広報誌として誕生し65年

町民の皆さまのご支援に感謝し、広報ゆざのこれまでを振り返ります



## 広報ゆざ 第500号

平成14年10月1日発行

A4判 28ページ

第10回を迎えた「奥の細道鳥海ツーダーマーチ」を6ページに渡り特集しています。町の外国語指導助手による英語の記事「Hello, Friends!」や、最後の決戦となった三崎山国盗り合戦などが取り上げられています。



## 広報ゆざ 第400号

平成6年6月1日発行

A4判 20ページ

A4判の20ページに紙面が拡大し、「広報ホットライン」「ヤング・ナウ」など名物コーナーが掲載されています。「鳥海山の草木散歩」や「川魚紳士録」といったコラムも充実し、読み応えのある紙面となっています。



## 広報ゆざ 第300号

昭和61年2月1日発行  
B5判 16ページ

「町民サロン」「町長日記」などのコーナーが掲載され、より親しみの持てる広報紙をめざしています。学校給食献立予定表には、ついにごはんが登場しました。



## 広報ゆざ 第200号

昭和52年10月1日発行  
B5判 12ページ

弁論大会や運動会、「遊佐郷ゆかりの人々」など、町民の活動にフォーカスを当てた内容も充実してきています。また、酒のみ運転追放や、出稼ぎの際の注意喚起の記事が掲載されており、当時の時勢を知ることができます。

## 記念すべき第1号

昭和29年8月、1町5ヶ村が合併し、新遊佐町が誕生。翌9月1日に「遊佐町廣報」と銘打ち、新しい町と町民とをつなぐ機関紙として広報紙の第1号が創刊されました。創刊当時はタブロイド判の2ページの紙面で、発行も不定期でした。

## 広報委員会の発足

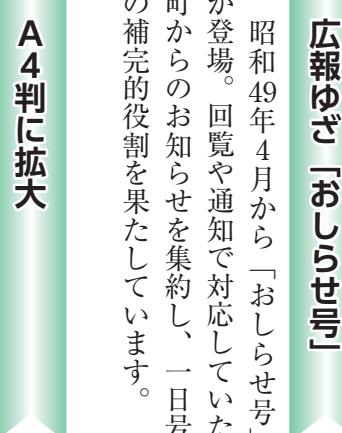
町民の声や町の話題を取り入れようと、昭和30年2月に、遊佐町広報委員会が設置されました。現在広報委員は7人体制で、毎月委員会を開催して広報活動に取り組んでいます。

## B5判の冊子形式に

「遊佐町廣報」から「広報ゆざ」に名称が変わったのは昭和33年1月の第17号。4ページに増え、内容も行政情報に加えて町内の話題やコラムなどが少しずつ見られるようになりました。

## 「広報ゆざ」のはじまり

「遊佐町廣報」から「広報ゆざ」に名称が変わったのは昭和33年1月の第17号。4ページに増え、内容も行政情報に加えて町内の話題やコラムなどが少しずつ見られるようになりました。



## 広報ゆざ 第600号

平成23年2月1日発行  
A4判 28ページ

600号記念特集として、名物コーナーであった「ヤング・ナウ」に登場された方の「今」を尋ねる記事が掲載されています。今や皆さんに親しまれる「遊佐カレー」の開発プロジェクトや、NPO法人遊佐鳥海観光協会でご案内する「ぐるっと鳥海湧水ルート」の愛称募集の記事が掲載されています。

## A4判に拡大

平成3年4月の第362号からA4版に切り替わり、文字と写真を大きく掲載。より読みやすくなりました。

## カラー印刷の導入

平成28年5月の第663号から、広報ゆざの紙面がカラー印刷になりました。表紙・裏表紙はフルカラー、中の紙面は2色刷りとなり、まちの話題をより鮮明に伝えることができるようになりました。

## 「いきいき遊佐」を伝える

町民の皆さまのご協力により、町の歴史とともに、広報ゆざは700号を歩むことができました。これからも「立派より温かく」をモットーに、より皆さまに親しまれる広報紙づくりに努めています。

## 懐かしの広報ゆざを展示します

町の書庫に眠っていた、昭和40年・50年代前後の広報ゆざ保存綴りを、役場2階のロビーにて展示します。懐かしの（生まれる前の？）広報ゆざを手に取り、昭和の時代に思いを馳せてみませんか？

●問／企画課企画係 ☎72-4523

※展示されている広報は持ち帰らないでください。  
※展示期間は年内を予定しています。

でファイルして保存しやすいスタイルに刷新されました。

昭和40年1月の第46号から、創刊当初のタブロイド判からB5判の冊子形式になりました。コンパクト



ます。

御  
幸  
せ



## 5/3 大御幣祭

鳥海山蕨岡修験修行の最終段階として行われた行事です。鳥海山大物忌神社蕨岡口ノ宮で開かれ、例祭のほか、奉遷祭、神宿祭、大御幣行列、蕨岡延年の舞奉納などが行われます。

- ①⑤大御幣送り／修験者に扮した若者がもみあい、大御幣を神社へ運ぶ。中門の下で「剣先」と呼ばれる若者が、御幣の向きを変えるため高さ約6mの御幣に登る場面も。
- ②大御幣行列／神宿から大物忌神社まで、天狗を先頭に行列が行進する。
- ③御頭舞／神宿祭で奉納される。
- ④⑥蕨岡延年の舞／県指定無形民俗文化財。写真は④「童哉礼」、⑥「陵王」。



# 5/4・5 吹浦祭

鳥海山大物忌神社吹浦口ノ宮で4日に宵祭り、5日に本祭りが行われます。花笠舞などが奉納されるほか、みこし巡幸が行われます。

⑦台花持ち／着飾った子どもたちが花を持ち、吹浦の町を練り歩く。

⑧⑨花笠舞／豊作を祈る舞で、祭の最後を飾る。宵祭りでは生花、本祭では造花を使う。奉納後の花笠は縁起物として奪い合いに。

⑩吹浦みこし会による吹浦みこし。

⑪奴振り／吹浦の各戸門払いを行う。

⑫前夜祭／吹浦小学校卒業生による和太鼓演奏。



5月の連休中は各地区で祭りが催されました。  
3日の大御幣祭、4・5日の吹浦祭の模様をお伝えし

と

